

令和7年度 三島商工会議所 事業継続力強化支援計画 評価会議 報告

1. 日 時 令和8年9月25日（金）15:00～16:30
※経営発達支援計画の評価会議も併せて実施した。
2. 場 所 三島商工会議所 4階会議室A
3. 評価委員 中山 勝 氏（学校法人静岡学園 静岡産業大学 特任教授）
（順不同） 松 浦 拓 哉氏（静岡県信用保証協会 沼津支店 保証第一課 課長代理）
岩 崎 圭之輔氏（静岡県事業承継・引継ぎ支援センター サブマネージャー）
玉 置 久 倫氏（中小企業診断士玉置事務所 所長）
佐 野 千 尋氏（三島信用金庫 元気創造部長）
4. 出席者 上記3. 評価委員4名（中山勝氏は書面決議）
三島市より、小糸 哲治 氏（産業文化部 商工観光まちづくり課 課長補佐）
三島商工会議所より、小島 信之（中小企業相談所 所長）、
石渡 智英（経営支援課 課長）、
麻谷 暢恵（経営支援課 課長補佐）、塩谷 洋司（経営支援課 主幹） 計9名
5. 評価方法 事務局から令和7年度の三島商工会議所の事業継続力強化支援計画の事業等の実施状況及び成果について説明をした。その後、質疑応答を経て、各項目及び計画全体について、委員5名による評価を受けた。
6. 評価結果
 - (1) 評価基準
 - A（4点）：目標を十分達成している（達成度：100%）
 - B（3点）：目標を概ね達成している（達成度：80%～100%未満）
 - C（2点）：目標を半分程度しか達成できていない、どちらかというと達成できていない（達成度：30%～80%未満）
 - D（1点）：目標を全く達成できていない（達成度：30%未満）
 - (2) 評価

【総合評価】 3. 8点／4点 （内訳：A評価 4名 B評価 1名）

「事業継続力強化支援計画」（R7年度～R11年度）は、初年度の実績に対する外部審査の結果、目標を概ね達成していると評価された。

計画は策定して終了ではなく、全国各地で発生する自然災害事例や他地域の会議所の取り組みを常に情報収集し、支援計画を更新していくことが不可欠である。また形式的な作成を避け、実際の復旧手順が浸透しているモデル企業の創出や、1年後のアクションプラン実行確認といった運用支援（BCM）の実効性確保が求められる。さらに、小規模事業者にとっては自然災害対策のみならず、後継者不在による事業承継や物価高騰等への対応も「広義のBCP」と捉え、日々の経営課題と一体となった伴走支援を展開することが極めて有効であると提言された。

【各項目の評価】

項 目	評価※	委員からのコメント
1. 事前の対策	4.0	・災害リスクの周知から会議所自身のBCP作成、フォローアップ、訓練の実施まで見据えた計画を立て、実際に発災した際を見据えてロードマップ的かつ確実な事前対策を行っている。
2. 発災後の対策	3.6	・応急対策手段（NTTビジネスチャット）の停電時や携帯での使用可否確認、衛星回線活用の検討、安否確認目標（3時間）の根拠明示や対応不能な最悪ケースへの対策検討を提示・考慮すべき。
3. 発災時における支持命令系統・連絡体制	3.6	・指示命令系統・連絡体制は整っているが、想定外の事態に備え指示系統を複数準備することが重要である。また単なる連絡にとどまらず、その後の迅速な報告や相談体制の確立もポイント。
4. 応急対策時の地区内小規模事業者に対する支援	3.8	・緊急相談窓口の設置や被害調査から復興支援策の活用に至る業務体制が確立されている点が高く評価された。一方、被災事業者への情報提供を逐次行えるリアルタイムな体制確立の必要。

※評価の値は、各委員の評価点数の平均値（満点は4点）となる。なお、C以下の評価を付けた委員はいなかった。